

第08回

- 講演者：三村 与士文 氏（東京理科大学）
 - 題目□Wasserstein距離とKeller-Segel系への応用
 - 日時：平成24年11月12日（月）16：30～17：30

アブストラクト: 1997年にJordan, Kinderlehrer, Ottoらによって、拡散方程式に対して、Wasserstein距離を用いた新たな変分的定式化がなされた。この先駆的の結果を契機に、Wasserstein距離の偏微分方程式への応用が盛んに研究され、この変分的定式化は、Ambrosio, Gigli, Savaréらによって、確率測度空間での勾配流として体系的に確立された。本講演では、Euclid空間やRiemann多様体上での勾配流の概念を模倣しながら、確率測度空間での勾配流を形式的に導き、偏微分方程式への応用を明らかにした後で、Wasserstein距離の定義を与える。さらに、講演者の主要な研究である退化拡散項を持つ完全放物型Keller-Segel系への応用を述べる。



.lg-outer.lg-pull-caption-up.lg-thumb-open .lg-sub-html {bottom:80px;}

29 images

From:
<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:
<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/seminar/2012/008>

Last update: **2017/11/16 23:40**

